

病害虫発生予察注意報第2号

佐賀県

作物名：大豆、野菜類、花き類、果樹類
病害虫名：ハスモンヨトウ

1. 注意報の内容

発生地域：県内全域
発生量：平年及び前年より多い

2. 注意報発表の根拠

- 1) 大豆における調査(9月14～16日、県内22圃場)では、幼虫の発生圃場率68.2%、発生株率7.8% (平年4.9%) であり、発生量は平年よりやや多かった(図1)。なお、本虫による食害の程度は圃場間で差が大きく、多発生した圃場も認められた(写真1、表1)。さらに、9月5半旬になって食害が進み、白変葉が発生した圃場も認められる(写真2、3)。
- 2) 県内9地点に設置したフェロモントラップでの雄成虫の誘殺数は、平年より多く推移しており、9月4半旬に急増した(図2)。
- 3) 福岡管区气象台が9月22日に発表した九州北部地方の予報では、向こう1ヶ月の気温が高い確率は70%とされており、本虫の発生に好適な条件となっている。

以上のことから、大豆では、すでに発生が見られる圃場や周辺圃場において、被害を生じる恐れがあり防除の徹底が必要である。また、野菜類、花き類及び果樹類についても、現時点での発生は多くないものの、大豆での多発生を受け、今後、発生の増加が予想されるため、注意が必要である。

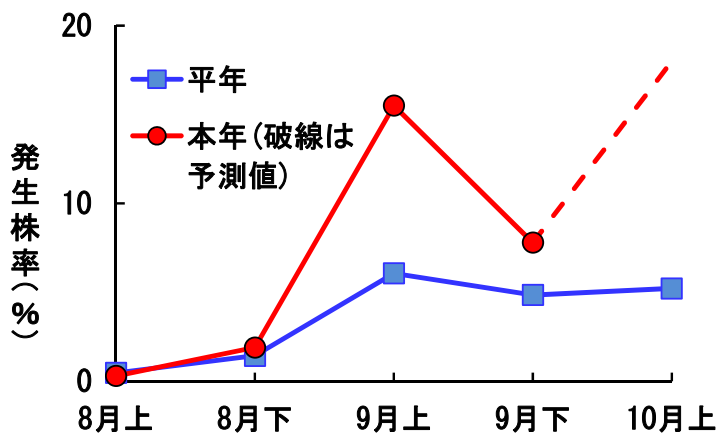


図1 大豆でのハスモンヨトウの発生推移



写真1 ハスモンヨトウに激しく加害された大豆
(平成28年9月15日撮影)

表 1 各大豆圃場毎のハスモンヨトウ幼虫の発生株率

圃場番号	ハスモンヨトウ幼虫の発生株率 (%)
No. 1	36
No. 2	30
No. 3	2
No. 4	0
No. 5	12
No. 6	0
No. 7	6
No. 8	4
No. 9	0
No. 10	2
No. 11	0
No. 12	2
No. 13	2
No. 14	0
No. 15	6
No. 16	0
No. 17	2
No. 18	10
No. 19	4
No. 20	0
No. 21	32
No. 22	22
発生圃場率 (%)	68.2
発生株率 (%)	7.8
平年発生株率 (%)	4.9



写真2 ハスモンヨトウにより新たに生じた大豆の白変葉（平成28年9月26日撮影）



写真3 白変葉に群れるハスモンヨトウ若齢幼虫（平成28年9月26日撮影）

図1の9月下旬の結果を圃場毎に表示

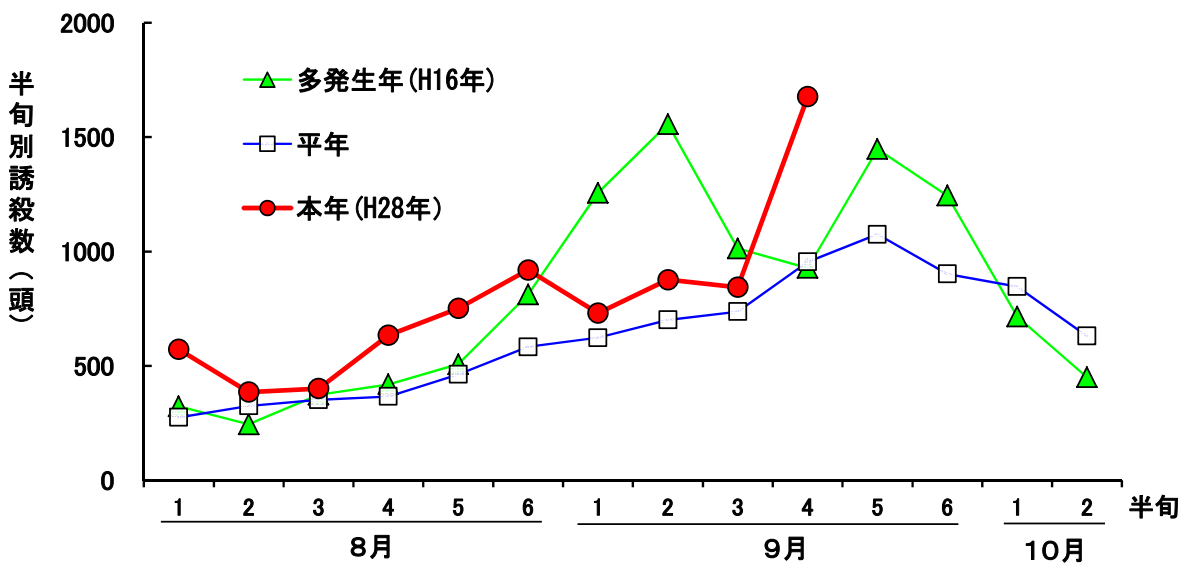


図2 フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の半旬別誘殺数（農業共済組合、農業試験研究センター、農業技術防除センターによる県内9地点の平均誘殺数。）

3. 防除上注意すべき事項

大豆

- 1) ハスモンヨトウの発生量は、圃場毎に大きく異なるため、必ず各圃場での発生状況を確認し、幼虫の発生が認められた圃場では、早急に薬剤防除を行う（表2）。
- 2) 同一成分の薬剤の防除効果は、一般に粉剤よりも液剤（水和剤、乳剤、フロアブル剤等）の方が高いため、今後の防除は液剤を用いて行う。
- 3) 幼虫は大きくなると日中は物かげにかくれ、夜間に活動する習性があるので薬剤散布は夕方に行う。
- 4) その他の防除方法は、「県病虫害防除のてびき」のハスモンヨトウの項 (<http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321964/index.html>) を参照する。

野菜類・花き類

- 1) 野菜類、花き類の施設では、開口部に防虫ネット（4mm目以下）を張り、成虫の侵入を防ぐ。また、幼虫のハウス内への侵入を防止するため、ハウス周辺に水を溜めた遮断溝を設ける。
- 2) 卵塊や若齢幼虫の発生に注意し、これらを認めた場合はできるだけ除去処分するとともに薬剤防除を実施する（表2）。
- 3) 幼虫は大きくなると日中は物かげにかくれ、夜間に活動する習性があるので薬剤散布は夕方に行う。
- 4) その他の防除方法は、「県病虫害防除のてびき」の各野菜・花きのハスモンヨトウの項 (<http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321936/index.html>) を参照する。
- 5) オオタバコガについても、今後の発生は平年に比べ多いと予想されるため、発生に注意し、初期に防除を行う。

果樹類

- 1) 圃場での発生に注意し、卵塊や幼虫の発生を認めた場合は直ちに薬剤防除を行う。

表2 ハスモンヨトウの主な防除薬剤 ※佐賀県施肥・病虫害防除のてびきに掲載している粉剤以外の薬剤を記載
大豆（無人ヘリコプターによる散布を除く）

IRACコード*	系統	薬剤名	成分名	希釈倍率	10a当たり 使用量	使用時期	本剤の 使用回数
1A	カーバメイト系	ラービンフロアブル	チオジカルブ	750～1000倍	—	収穫14日前まで	2回以内
		ランネート45DF	メソミル	1000～2000倍	100～300L	収穫14日前まで	4回以内
3A	ピレスロイド系	トレボン乳剤	エトフェンブロックス	1000倍	100～300L	収穫14日前まで	2回以内
		トレボンEW	エトフェンブロックス	1000倍	100～300L	収穫14日前まで	2回以内
15	ベンゾイル尿素系	アタブロン乳剤	クロルフルアズロン	2000～4000倍	100～300L	収穫14日前まで	2回以内
		カスケード乳剤	フルフェノクスロン	4000倍	100～300L	収穫7日前まで	2回以内
		ノーモルト乳剤	テフルベンズロン	2000倍	100～300L	収穫14日前まで	2回以内
18	ジアシルヒドラジン系	マトリックフロアブル	クロマフェノジド	2000～3000倍	100～300L	収穫前日まで	3回以内
		ロムダンゾル	テブフェノジド	1000倍	150～300L	収穫14日前まで	3回以内
11	BTと殺虫バクテリア生産物	フローバックDF	BT	1000倍	100～300L	発生初期 但し、収穫前日まで	—
22A		トルネードエースDF	インドキサカルブ	2000倍	100～300L	収穫7日前まで	2回以内
UN		ブレオフロアブル	ピリダリル	1000～2000倍	100～300L	収穫7日前まで	2回以内
28	ジアミド系	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド	2000倍	100～300L	収穫7日前まで	3回以内
		フェニックスフロアブル	フルベンジアミド	2000～4000倍	100～300L	収穫7日前まで	3回以内
		フレバソソフロアブル5	クロラントラニリプロール	4000倍	100～300L	収穫7日前まで	2回以内
		ベネビアOD	シアントラニリプロール	2000～4000倍	100～300L	収穫7日前まで	3回以内
		ペガサスフロアブル	フルベンジアミド	2000～4000倍	100～300L	収穫7日前まで	3回以内

UN：作用機作が不明あるいは不明確な剤

イチゴ

IRACコード*	系統	薬剤名	成分名	希釈倍率	10a当たり 使用量	使用時期	本剤の 使用回数
1A	カーバメイト系	ラービフロアブル	チオジカルブ	1000倍	—	定植30日後まで	3回以内
11	BTと殺虫バク質生産物	デルフィン顆粒水和剤	B T	1000倍	100～300L	発生初期 但し、収穫前日まで	—
15	ベンゾイル尿素系	アタブロン乳剤	クロルフルアズロン	2000倍	100～300L	収穫前日まで	3回以内
		カスケード乳剤	フルフェノクスロン	4000倍	100～300L	収穫前日まで	3回以内
		ノーモルト乳剤	テフルベンズロン	2000倍	100～300L	収穫前日まで	2回以内
18	ジアシル-ヒドラジン系	ファルコンフロアブル	メトキシフェノジド	4000倍	100～300L	収穫前日まで	3回以内
		マトリックフロアブル	クロマフェノジド	2000倍	100～300L	収穫前日まで	3回以内
		ロムダンフロアブル	テブフェノジド	2000倍	100～300L	収穫前日まで	2回以内
13		コテツフロアブル	クロルフェナビル	2000倍	100～300L	収穫前日まで	2回以内
6	ミルベマイシン系	アニキ乳剤	レビメクチン	2000倍	100～300L	収穫前日まで	3回以内
	アベルメクチン系	アフーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩	2000倍	100～300L	収穫前日まで	2回以内
22A		トルネードエースDF	インドキサカルブ	2000倍	100～300L	収穫前日まで	2回以内
		トルネードフロアブル	インドキサカルブMP	2000倍	100～300L	収穫前日まで	2回以内
28	ジアミド系	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド	2000～4000倍	100～300L	収穫前日まで	2回以内
		ベネビアOD	シアントラニプロール	2000～4000倍	100～300L	収穫前日まで	3回以内
UN		ブレオフロアブル	ピリダリル	1000倍	100～300L	収穫前日まで	4回以内

UN：作用機作が不明あるいは不明確な剤

アスパラガス

IRACコード*	系統	薬剤名	成分名	希釈倍率	10a当たり 使用量	使用時期	本剤の 使用回数
11	BTと殺虫バク質生産物	ゼンタリー顆粒水和剤	B T	1000倍	100～300L	発生初期 但し、収穫前日まで	—
		デルフィン顆粒水和剤	B T	1000倍	100～300L	発生初期 但し、収穫前日まで	—
15	ベンゾイル尿素系	カスケード乳剤	フルフェノクスロン	4000倍	100～300L	収穫前日まで	2回以内
		ノーモルト乳剤	テフルベンズロン	2000倍	100～300L	収穫前日まで	2回以内
28	ジアミド系	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド	2000倍	100～300L	収穫前日まで	2回以内
		プレバソソフロアブル5	クロラントラニプロール	2000倍	100～300L	収穫前日まで	3回以内
UN		ブレオフロアブル	ピリダリル	1000倍	100～300L	収穫前日まで	2回以内

UN：作用機作が不明あるいは不明確な剤

キャベツ

IRACコード*	系統	薬剤名	成分名	希釈倍率	10a当たり 使用量	使用時期	本剤の 使用回数
1B	有機リン系	オルトラン水和剤	アセフェート	1000～1500倍	100～300L	収穫30日前まで	1回
1A	カーバメイト系	ラービフロアブル	チオジカルブ	750～1000倍	—	収穫7日前まで	4回以内
		ランネット45DF	メソミル	1000～2000倍	100～300L	収穫3日前まで	3回以内
6	ミルベマイシン系	アニキ乳剤	レビメクチン	1000～2000倍	100～300L	収穫3日前まで	3回以内
5	スピノシン系	ディアナSC	スピネトラム	2500～5000倍	100～300L	収穫前日まで	2回以内
22B		アクセルフロアブル	メタフルミゾン	1000～2000倍	100～300L	収穫前日まで	3回以内
28、4A	ジアミド系、ネオニコチノイド系	キックオフ顆粒水和剤	クロラントラニプロール、ジノテフラン	100倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm・使用土壌約1.5～4.0L)当り0.5L	定植前日～定植時	1回
28	ジアミド系	ベネビアOD	シアントラニプロール	2000～4000倍	100～300L	収穫前日まで	3回以内
		ベリマークSC	シアントラニプロール	400倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4L)当り0.5L	育苗期後半～定植当日	1回

UN：作用機作が不明あるいは不明確な剤

キク

IRACコード*	系統	薬剤名	成分名	希釈倍率	10a当たり 使用量	使用時期	本剤の 使用回数
11	BTと殺虫バク質生産物	ゼンタリー顆粒水和剤	B T	1000倍	100～300L	発生初期	—

バラ

IRACコード*	系統	薬剤名	成分名	希釈倍率	10a当たり 使用量	使用時期	本剤の 使用回数
28	ジアミド系	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド	2000倍	100～300L	発生初期	4回以内

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
TEL (0952) 45 - 5297 FAX (0952) 45 - 5085